

本県の公害の現状は、大気汚染は年々減少の傾向にありますが、都市周辺の河川の水質はやや悪化しつつあります。そのほか、騒音、悪臭などの公害は、依然として生活環境を損う原因として局地的に発生しております。

これらの問題に対処するため、四十八年度において組織、機構の拡充、増員を行い、テレメーター等の機器の整備も充実されましたので、この体制を十分活用し、既存の工場等に対する監視、指導の強化、新立地企業に対する厳密な事前点検等を行い、公害の未然防止対策を推進します。



水俣湾の網締切のためのふい敷作業

また、水俣病認定業務の促進、水俣湾堆積汚泥の処理事業等懸案になっている問題については、検討委員会等で結論を得次第、随時即応の措置を講じ、対策を促進することにしています。

★ 公害防止・指導の強化……

工場、事業場に対する立入総点検を重点事業として実施するとともに、新立地企業については厳密な事前調査を実施し、環境に及ぼす影響等を検討し、公害の未然防止をはかります。

そのほか、水質汚濁防止対策として菊池川水系、八代海等の環境基準の類型あてはめ、及び菊池川水系、白川上流に係るの上の排水基準の設定のための調査を。大気汚染防止対策として環境容量の予測基礎調査、塩化水素等有害物質についての上の排出基準の設定を行い、規制の強化を行います。

★ 公害監視調査……

四千五百八十九万円

①公害監視測定のための機器整備に一千万円を、②河川、海域の水質環境基準の維持達成状況の監視のため九百万円を、③有明海、八代海について、四十九年度も引き続き水銀等の精密調査を行うために四百二十七万円を、④大気汚染監視テレメーター網の設置に伴い、常時監視とスモッグ発生時の措置を迅速適確に実施するために一千二百四十八万円を、

二千五百万円

四十九年四月二十二日現在で認定患者は六百九十九人、認定申請中の人は二百九十六人となっています。

認定患者が水俣病について治療を受けたり、介護を受けたときは、その程度に応じた医療費、医療手当および介護手当を支給していますが、これらの費用として八千九百二十一万円を、また、申請中の人たちの検診、審査を行うため二千九百七十八万円を計上しています。

★ 有明海・八代海総合調査……

三千二百九十三万円

有明海、八代海の抜本的な環境浄化を行うための基礎資料を得るため、同海域の魚介類などについて、水銀、カドミウム、鉛等の分析を行い、これらによる汚染水域の範囲を明らかにし、さらに汚染魚介類等の種類、分布状況、回遊範囲等魚介類の生態を調査いたします。

★ 魚市場魚介類水銀等調査……

三百六十七万円

毎月重点的に県内二十市場等の上場される魚介類について、水俣、宇土、本渡、山鹿の四保健所において水銀の分析を行い、魚介類の安全性を確認することとしています。



▲漁業の町・崎津にそびえる天主堂

▼現在は茶北町資料館



天主堂と代官屋敷

寛永十四年（一六三七）、一斉蜂起した天草のキリシタン一揆は、徳川幕府により鎮定されました。このショックでこれまでの統治体制は崩壊し、幕府は寛永十八年、天草を幕府直轄の公領代官地つまり天領とし、「邪教」根絶の宗教政策をとりました。

その後、明治に至り、絶滅させられたかに見えるキリシタンは復活し、大江と崎津に天主堂をたてよみがえりました。一方富岡の幕府代官屋敷は明治維新で幕となり、本渡に移築され、最近まで県の天草事務所の一部でしたが、新庁舎移転に伴って、また富岡に引きとられ、茶北町資料館として生き続けています。

この二つの建物は天草の歴史とロマンを物語る象徴的なものでしょう。